

名古屋市による施策の紹介

水環境改善に向けた取り組み

第28回報告会

緑政土木局河川計画課

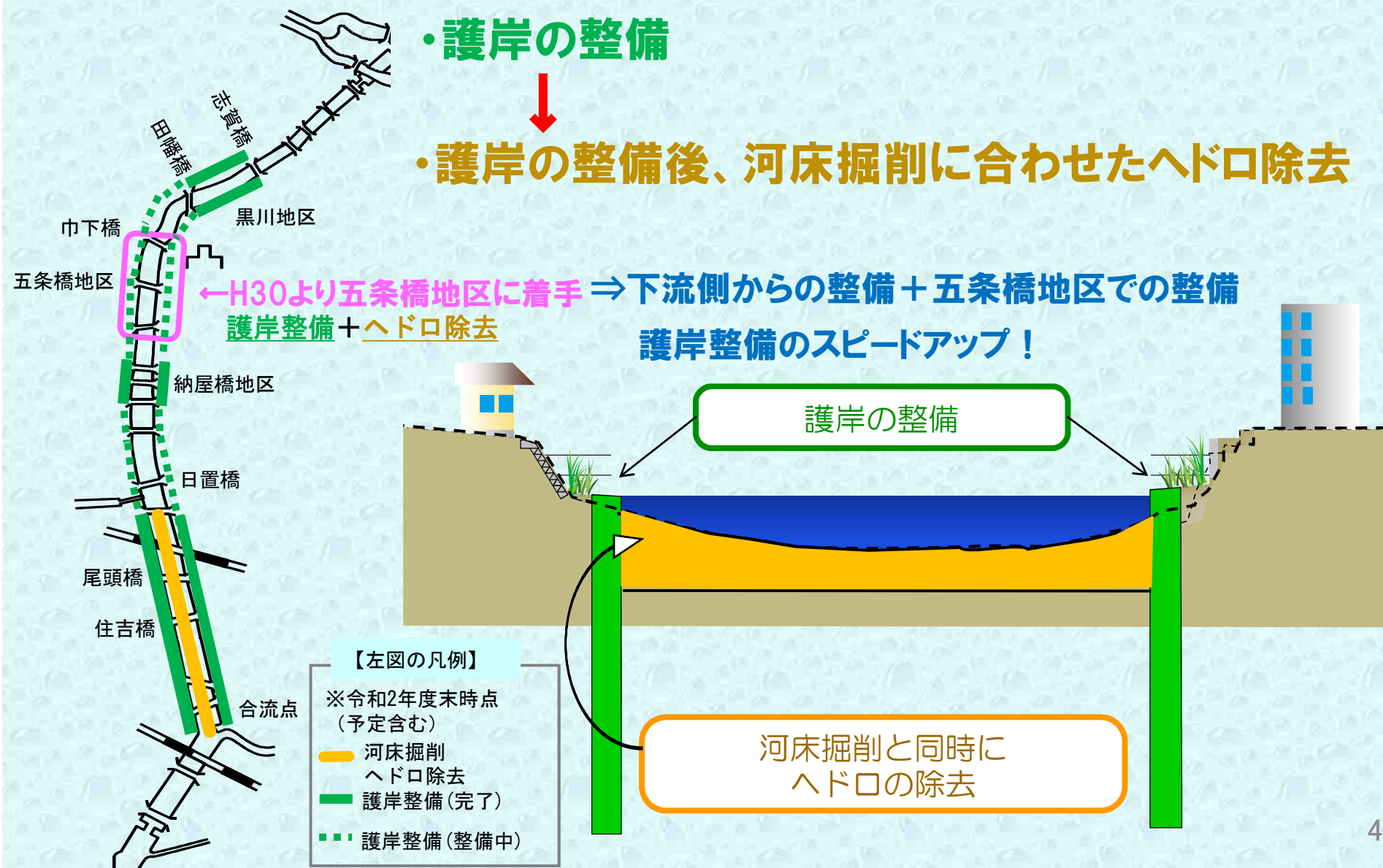
上下水道局下水道計画課

環境局地域環境対策課

緑政土木局の施策

堀川の浄化対策 ～①ヘドロ除去～

◆堀川のヘドロ除去①



◆堀川のヘドロ除去②

護岸整備工事の状況



整備前

(伝馬橋上流)

整備後

河床掘削(ヘドロ除去)工事の状況

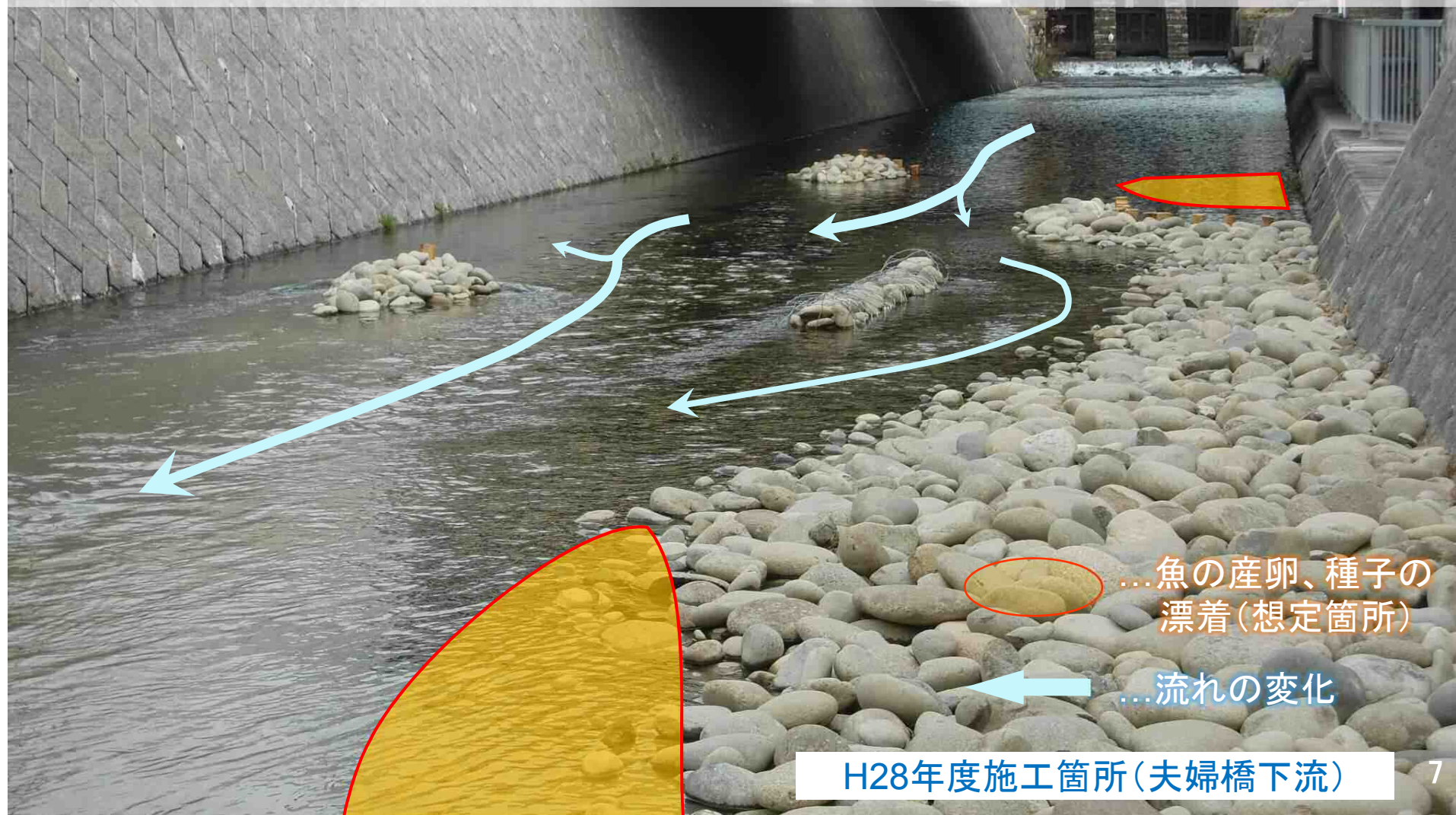


(住吉橋下流)

堀川の浄化対策 ～②瀬・淵の設置～

◆瀬・淵の設置

置石等の設置によって単調な流れに変化を持たせ、植物の成長を促しながら川の自浄機能の向上及び生物の生息環境の形成など、水環境改善を図る。



◆瀬・淵の設置



堀川上流部で見られる生物の一例



◆設置による効果

- ・ 魚類の種類、個体数が増加
(オイカワ等)
- ・ 底生生物が増加
(スジエビ等)
- ・ 植物の生育が促された

◆瀬・淵の設置

令和3年3月、北区の新堀橋下流に設置完了

位置図



現地の様子



堀川の浄化対策 ～③浅層地下水の活用～

◆浅層地下水の活用

・R2年度は、さらなる増設にむけて、
守山区内に設置を予定。(下図 ★)



瀬古橋上流0.01m³/s



辻栄橋上流0.01m³/s



木津根橋上流0.01m³/s



猿投橋上流0.01m³/s



志賀橋上流0.01m³/s



清水わくわく水
0.0005m³/s



金城橋上流0.01m³/s



中土戸橋上流0.01m³/s



黒川1号橋上流0.01m³/s

※②、③、④の井戸は
現在故障中
⇒修繕に向けて調査中

堀川の浄化対策

～④浮遊ゴミの回収量の推移～

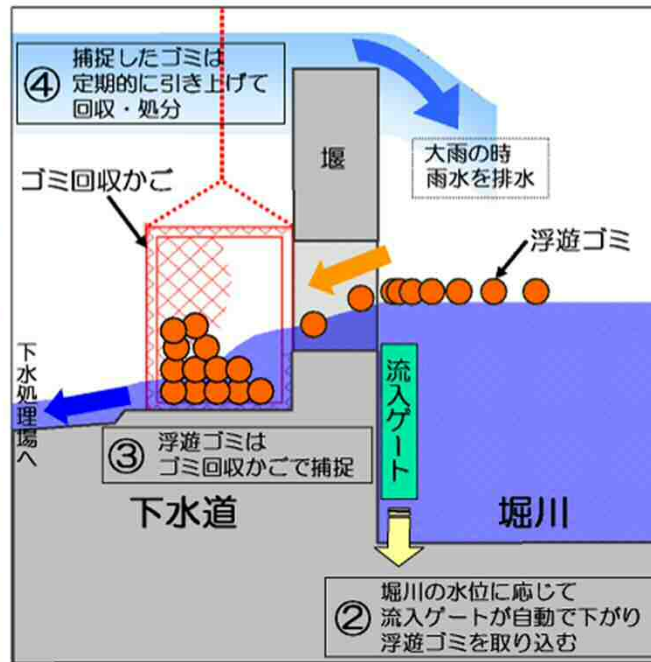
■浮遊ごみの除去

1 ごみキャッチャー（城北橋付近） 平成18年度より

☆下水道の雨水吐き（堰）を改造して流入ゲートとゴミ回収かごを設置



施設の設置状況



断面図（イメージ）



■浮遊ごみの除去

2 清港会による清掃



■浮遊ごみの除去

2 清港会による清掃 その2

清港会を所管する名古屋港管理組合へ再度打診！

前回の第27回会議において市民から報告があった、
新堀川の浮遊ごみの集積箇所を伝え、効率的な回収を依頼。

（名古屋市）
向田橋下流など新堀川でも凹の箇所に
ごみが集積しています。
堀川と同様に、下げ潮時に回収する
など効率的な回収をお願いしたい。

（名古屋港管理組合）
わかりました。
清港会に伝え、できる限り
回収できるよう努めます。



■浮遊ごみの除去

3 浮遊ごみの回収量推移



新堀川の浄化対策

■新堀川の水環境改善に向けた調査検討(R2年度)

新堀川の水環境改善に向けて、有識者の意見を聞きながら、様々な水質浄化策の有効性等を検証、評価し、今後の浄化方針を策定した。

有識者一覧

(50音順、敬称略)

氏 名	所 属	分 野
大東 憲二	大同大学	教授 環境地盤工学 底質学
富永 晃弘	名古屋工業大学大学院	教授 河川工学 水理学
松尾 直規	中部大学	名誉教授 河川工学 環境水理学
八木 明彦	愛知工業大学	客員教授 陸水学
吉田 奈央子	名古屋工業大学大学院	准教授 環境微生物学

■新堀川の水環境改善に向けた調査検討(R2年度)

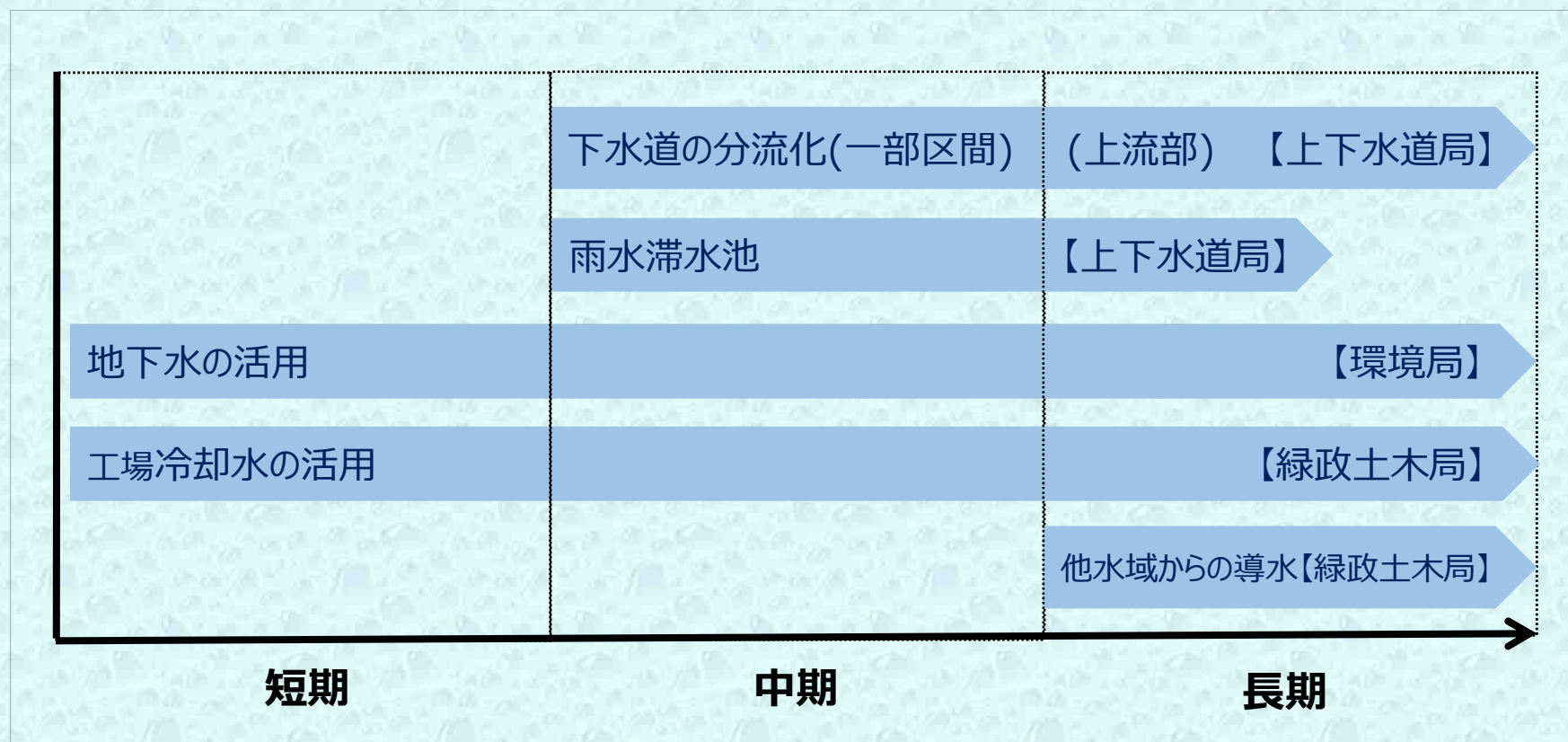
今後の浄化方針

- ① 水環境改善の根源対策として、汚濁負荷(有機物)を削減できる下水道の分流化をできる限り広域で進める。
また、下水道の分流化を目指す中で、雨水滞水池の整備など早期に効果を発揮する対策を併せて進める。
- ② 短期対策として、底層DO※の改善が期待できる地下水や工場冷却水を放流する。
- ③ ①②の対策を着実に進め、継続的に水質改善効果を確認する。
また、さらなる水環境改善に向けて、取水先の水質改善に応じて他水域からの導水に取り組む。

※DO：溶存酸素量

■新堀川の水環境改善に向けた調査検討(R2年度)

＜想定スケジュール＞



短期：1～5年 中期：5～10年 長期：10年以上

■名古屋商工会議所との連携

○沿川企業を巻き込んだ新堀川の盛り上げを期待

- ・乗船体験会を実施（現状を知る）
沿川企業を対象に実施予定（R3年5月）
- ・将来像を意見交換（未来を語る）
民産学官で将来像の議論をスタート
第1回（R2年8月開催）、第2回（R3年3月開催予定）